

経営比較分析表（令和6年度決算）

香川県三豊総合病院企業団 三豊総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	29	対象	ド透1訓方	救臨が感へ災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	44,942	-	第2種該当	10:1

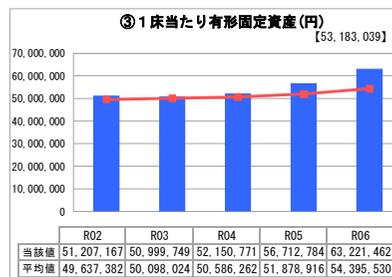
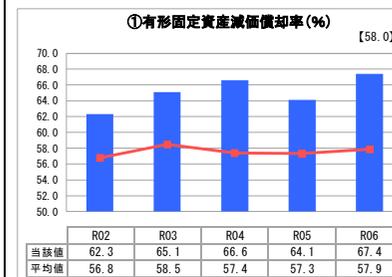
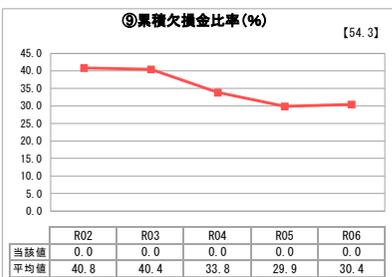
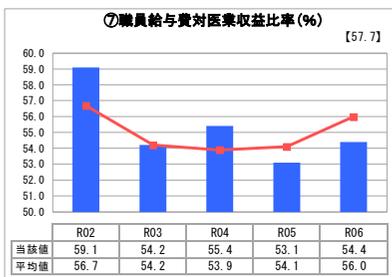
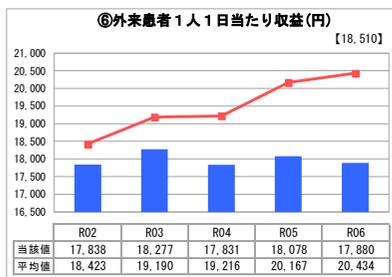
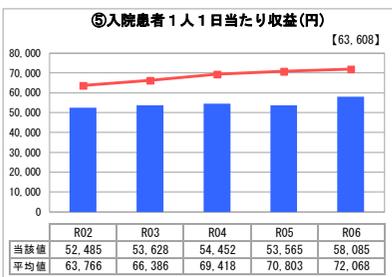
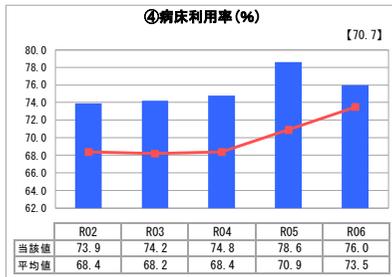
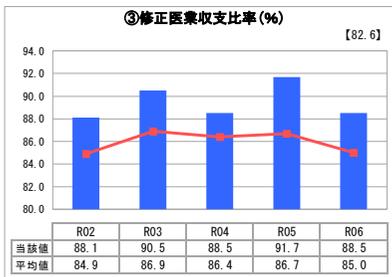
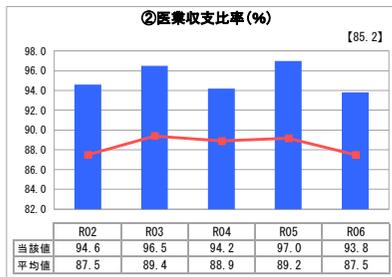
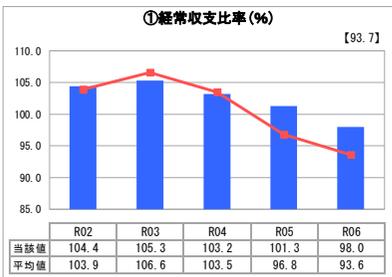
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
412	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	416
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
434	-	434

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
□	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の縦割・ネットワークをききむ)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は香川県の西部保健医療圏である観音寺市、三豊市における中核病院であり、四国中央市や徳島県西部においても重要な位置づけとなっている。これらの地域の住民へ安心安全な医療を提供することを使命としており、救急医療や高度先進医療の提供、がん診療、地域医療支援病院としての地域医療連携の推進などの役割を担う。近年では「地域がん診療連携拠点病院」として手術支援ロボットの導入、最新鋭の高度放射線治療システムも導入し、日本人の2人が罹患すると言われる「がん」に対する治療が特に大きな役割になってきている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%を下回ったが、これは全国的に発生していることであり当院は類似病院の平均値よりも高い数値に位置している。入院単価は全身麻酔の増加や高度医療機器の導入を積極的に行うことにより年々増加し、60,000円を上回っている。外来単価については18,000前後で安定しており減少傾向にはない。病床を削減したため、今後は病床利用率85%を目標にし収益を増加させ、経営状態を回復させることで、欠損金を発生させないよう努める。

2. 老朽化の状況について

器械備品の減価償却率が例年全国平均よりも高い数値を示しているが、これは適切なメンテナンスや修繕を実施し、長寿命化を計画的に実施しているためであり、老朽化によって質が低下するものではない。建物についても新棟を竣工して間もないことや、病院機能の中心を担う西棟が平成23年竣工であるため老朽化による質の低下は考えられない。1床当たりの有形固定資産は大きく増加しているが、病床数を削減したためであり、過剰な投資をしている背景はないと考えている。

全体総括

物価の高騰、少子高齢化の進展、東京への一極集中、国の財政事情の悪化、医師の偏在、地方における若年人口の減少に伴う医療スタッフ不足等が原因となり医療を取り巻く環境は年々厳しさを増している。当院も例外なく影響を受け、昭和56年度以来の純損失を計上した。人件費の高騰による給与費の増加や物価の高騰による材料費・消費税支出の増加が、診療報酬には完全に反映されておらず、費用面において今後も厳しい状態が継続すると思われる。しかし、純損失を計上したことにより職員の経営意識が高まりつつあることや、長年固定資産を長く使えるよう努めてきたためキャッシュの流出を抑えることができていること等、経営状況の改善に向けての兆しもあるため、今後も経営形態の見直しは検討せずに運営していく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。